

(3) 具体的診断項目をサンプルとして提示し、各学校の必要に応じて加除修正することができるようにした。

① 学校評価票 1

学校評価票 1 は、教職員用（質問数 30）、児童生徒用（質問数 20）、保護者用（質問数 20）を小・中・高等学校の種別に分けて計 9 種類を作成した。

【学校評価票 1 の概要】

中学校・生徒用
このアンケートは、みなさんの学校生活をよりよいものにするため、学校改善の資料にするものです。 A～Dの最もあてはまるものを○で囲んでください。どうしてもわからない質問は、○で囲まなくてかまいません。 この結果は、後日、整理して生徒のみなさんにお知らせします。
* A：あてはまる B：ややあてはまる C：あまりあてはまらない D：あてはまらない
1 学校へ行くのが楽しい。 2 学校は教育目標や方針を生徒にわかりやすく伝えている。 3 本校には、受け継がれてきた伝統や校風がある。 4 先生方は生徒の意見をよく聞いてくれる。 5 知識を豊かにするために読書に親しむ時間が設けられている。 6 授業はわかりやすく充実している。 7 授業は、自ら活動する場が設けられるなど、さまざまな工夫がなされている。 8 学習の評価は、テストの得点だけでなく、生徒の努力や授業に取り組む態度などを含めて行われている。
(以下略)

② 学校評価票 2

次の 3 点をねらいとして作成した。

- 教育目標達成のための具体的な取り組みを計画・実践・評価・改善する。
- 教育活動を展開する原動力に結びつく評価とする。
- 学校と家庭・地域の双方向のコミュニケーションを図る評価とする。
これらのねらいを基に、さらに次の点について配慮した。
- 学校の教育目標や重点課題への取り組みや「学校の特色」が見えるものにする。
- 教育活動の達成状況を判断する具体的基準を設定して評価する。

- 最後に一度だけの評価を行うのではなく、評価（中間評価）を行う。（Doの段階でも Do・Check・Actionのサイクルを取り入れる。）

【学校評価票 2 の概要】

計 画 (P)	課題			
	現状			
	教育目標との関連	担当		
	具体的な手立て	目指す姿		
実 践 (D)	実践の場	情報発信受信		
	評価基準	実践期間		
実 践 (D)	実践	A (目指す姿) B C (現状) D		
	改善	中間評価		
	評価	情報発信受信		
改 善 (A)	改善	情報発信受信		

3 学校評価システム案の試行とその結果

- (1) 試行期間
平成14年 9月～11月の 3 か月間
- (2) 試行実施校
研究協力校、研究参加者所属校 15校
- (3) 試行結果の考察
 - ① 学校評価全般について
試行によって、「従来の評価への反省」「日頃の教育活動の見直し」「説明責任の自覚」「児童生徒理解の深まり」「積極的な改善」等々にお